

問題としては極めて曖昧の間に葬られて居つて西域諸國の基督教傳播史の上に、強い根據を與へたものである、殊にペリオ氏に依つて敦煌から發見せられた漢文の經典、景教三威蒙度讚及び尊經は、短かいものではあるが唐代に於ける此の教の流行の名殘として、かの景教碑の記事及び數種の書記の上に有力なる證左を與ふるものである、前者は聖三位に對する讚で、後者は有名な景教僧景淨の譯出した三十餘種の經名を擧げたものである。これに關する詳細なる研究はまだ公やけにされないと思ふが、一部分のことは河内の *Bulletin de l'Ecole Française d'Extrême-Orient*, VIII, p. 519 及び *Journal Asiatique*. 1913. jan.-juin. p. 134 に見えて居る、但しこの遺經は同じ場所から出て我が京都富岡氏の所藏に歸した同教典一神論（藝文第七年一月號參照）の爲に、稍々その聲價を下げた譯であるが、ともかく唐代以後初めて發見せられた景教經典である。

マニ經典なるものもまた殆んど知られなかつたものであるが、これも中期波斯文、ソグド文、回鶻文及び漢文等各種の翻譯が得られた、從來此の經典は、専らシリヤ語で行はれたものと信ぜられて居つたのであるが、今日ではかゝる實際上の證據に依つて、その誤であつたことが證明せられたわけである、此の宗教は教祖マニの磔刑と共に波斯本國には禁止せられ、その後解禁せられたことはあつたが要するに一時的の現象で、遂に波斯には亡びてしまひ、僅かに東西に逃れた教徒に依つて、外國に命脈を保つに過ぎなかつた、回鶻人が此の教の熱心な信徒に成つたことは有名な次第であるが、それも佛教回教の信仰の爲に漸次衰微し、その經典も失はれて、本來のマニ教とは如何なるものであつたかも明らかには分らず、僅かに基督教史の中に傳へらるゝ所に依つて、その大體を推測し得るに過ぎなかつた、然るに此の如く諸國語に翻譯せられた重要な經典が見出されたので、今日では大概その真相を知